

令和8年2月1日(日) 《午前》 「日本の近現代史①」

次世代リーダー育成道場では、研修の一環として、日本の近現代史を全3回に分けて学びます。今回の講義はその第1回目で、「歴史的な出来事をどのような視点で考えるのか」を確認した上で、「近代国家日本の成立—開国から日清・日露戦争まで—」について学びました。

研修生は、事前に講義内容に関する動画を視聴し、その内容を踏まえて出された課題に取り組んだ上で、当日の研修に臨みました。複数の資料を読み比べながら、自分なりの考えをまとめ、ワークシートに整理して提出するなど、主体的に学習を進めました。

事前課題では、明治時代の日本がどのようにして近代国家として歩みを進めたのかについて調べ、「自由と制限」「平等と格差」「対立と協調」などの視点を意識しながら、自分の言葉で説明できるようにすることを求めました。また、留学先で出会う人々から、日本の近代化や日本文化についてどのような質問を受ける可能性があるかを想像し、「問い」を立てることに挑戦しました。

研修当日は、研修生が3つの組に分かれ、関心の近いテーマごとに3～5名のグループをつくって発表と協議を行いました。「明治維新」「開国と鎖国のそれぞれの特徴」「明治維新による社会の変化」など、さまざまなテーマについて意見を交わしながら、日本の近代化を支えた人々の努力や、その成果と課題について理解を深めました。

研修生たちは、歴史を「暗記するもの」としてではなく、「現代や自分自身につながるもの」として捉え直し、留学に向けて、日本や自国の歴史を自分の言葉で説明する力を少しずつ身に付けています。



令和8年2月1日(日) 《午後》 「ゼミナール①」

第14期Bコース研修生の第1回ゼミナール研究を、2月1日(日)に実施しました。ゼミナール研究では、「次世代リーダー」として、地球規模(世界的)の課題に対し、日本人の一人として自分に何ができるのか、また、どのようにその解決に関わっていくのかを考えます。研修生は、まず自分の興味・関心のある分野から研究テーマを設定し、文献調査や聞き取り、アンケートなどを通して、現状を調べながら研究を進めていきます。留学前には、全4回の研修と3回の個別面談を行い、テーマを選んだ理由や研究の目的を整理しながら、段階的にゼミナール研究を深めていきます。研究の成果は、留学帰国前に「ゼミナール研究報告書」としてまとめ、提出します。

今回の第1回研修では、5人程度のグループに分かれ、これまでの面談等を通して考え、整理してきた「研究テーマ」について、一人一人が発表を行いました。発表後は、グループ内で意見交換を行い、他の研修生からの助言を受けながら、自分の研究テーマの進め方や今後の方向性を確認しました。

研修生たちは、グループでの協議を通して、自分のテーマを客観的に見つめ直し、より深く考えることができたようです。次回の研修では、研究のアウトラインや具体的な調査方法について、さらに踏み込んだ協議を行う予定です。また、研修後には振り返りシートを活用し、今後の研究活動の充実につなげていきます。

